

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070900875		
法人名	社会福祉法人 福岡愛心の丘		
事業所名	グループホーム 愛心（北棟・南棟）		
所在地	〒812-0858 福岡県福岡市博多区月隈6丁目16番11-1号 (電話) 092-503-9008		
自己評価作成日	令和 3 年 9 月 30 日	評価結果確定日	令和 3 年 12 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

介護理念「楽しく・美しく・いつまでも・地域と共に」をスタッフが理解し実践している。施設は純和風な作りをしており、居室は畳部屋で高齢者の方が心地よく生活出来るよう環境を整えている。スタッフは、ご利用者様本位のサービスを提供する事を目標としており、日常生活においてはご利用者様の個々のペースを把握し、起床・食事・入浴時間において固定せず、可能な限り希望通りのサービスが提供できるように配慮している。また、ご利用者様が退屈しないようにレクリエーションや行事に力を入れており、ご家族をお招きしての感謝の日会や敬老会等実施し、ほホームでの生活が楽しいものとなるよう取り組んでいる。その他、施設全体でも地域交流にも力を入れており、毎年開催される夏祭りや定期的に開催しているサロンでは、地域の方にお越し頂いて、地域に貢献できる施設を目指している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 3 年 10 月 20 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

施設は丘陵地に位置し、周辺には小学校や住宅地が広がり、田園や公園、森林地が多く残っている。同法人の特別養護老人ホームとケアハウスが併設している。

職員は、利用者と家族、地域とのつながりを大切に日々理念の実践に取り組んでいる。管理者は、職員の意見や要望を実際に運営に反映して働きやすい職場環境の整備に努め、職員同士もお互い助け合い、勤務年数の長い職員が多く、利用者や家族の安心に繋がっている。食事の準備では、利用者と共に野菜を盛付けて、会話や笑い声が聞こえ、家庭的な雰囲気、職員と利用者は家族のように時間を過ごしている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しく・美しく・いつまでも・地域と共に」の介護理念を掲げている。スタッフは毎日申し送り時に介護理念を暗唱している。また、理念を元に昨日実施した利用者利用者様との関りを報告してもらっている。スタッフ同士良い刺激となっており、理念を意識しながら日常業務に取り組んでいる。	朝礼時に理念を唱和している。職員は、前日に取り組んだ支援やその日の利用者との関わりについて目標を報告・発表している。利用者一人ひとりの時間を大切にに関わり、日々の支援の中で、意識を持って理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防のために実施できていない。	法人で夏祭りを開催し、地域住民の参加があっていたが、コロナ禍で事業所のみで夏祭りを開催し、利用者に浴衣を着付けして雰囲気を楽しんでもえるよう工夫され、事業所内でのあてや金魚すくい等を行っている。敬老会に小学校からの慰問があり、幼稚園に園児と利用者が一緒にプランターに花を植える等の交流をしている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として介護相談センターを設け、地域の方が認知症を含めた高齢者介護全般について相談出来る場を設けているが感染予防のために地域の施設、病院と協力し開催していたサロンは現在実施出来ていない。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染予防のために運営推進会議の開催は実施できていないが、委員の方に現状報告を定期的に行い、意見を聞く体制は取っている。	協力病院の地域連携室、地域包括支援センター民生委員、法人と事業所の利用者の家族が参加され、利用者の状況や誕生会、事故報告、新入職員の紹介など近況を報告している。会議での意見をサービス向上や運営に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	感染予防のために市町村の担当者と積極的に連絡を取り強力関係を築くのは難しいが、困り事があったときは電話等で相談している。	福祉事業所と地域住民会議のからの要望により、他施設と病院と持ち回りで「まごころサロン」を開催している。健康教室や施設で作った巻きずしの販売会、バンド演奏があり、地域住民も参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設方針で拘束は行っていない。身体拘束マニュアルを作成し、スタッフが閲覧出来るようにしている。マニュアルは定期的に見直し、話し合いを行っている。施設内では身体拘束廃止委員会による資料を回覧し学習の場を設けている。日中、玄関の施錠は行っていない。居室施錠が必要なご利用者様はご家族へ説明し同意を得て、ケアプランに反映させている。	入所して間もない利用者の部屋のベランダの鍵は、家族の同意をとって施錠している。様子を見て開錠できるように、半年後のモニタリング時に検討している。職員は外出傾向にある利用者と一緒に外に出て付き添いを行って支援している。身体拘束マニュアルがあり、定期的に見直しを検討している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	感染予防のために全スタッフは施設内で資料での回覧研修にて高齢者虐待防止について学ぶ事が出来る。万が一、スタッフが虐待へと繋がる対応を発見した場合は迅速に対応している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	感染予防のために全スタッフは施設内の資料での回覧研修において成年後見人制度・日常生活自立支援事業について学びの機会を設けている。入居契約時には成年後見制度についてご説明を行っている。また、ご家族からの希望があれば申請手続きに関して支援、協力をしている。	成年後見制度については、入所時に家族にパンフレットを渡して説明を行っている。制度に関する研修会については、外部研修、内部研修ともに開催、参加がない状況である。	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、活用につなげられるよう今後の取組に期待する。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、重要事項・契約内容について読み合わせを行っている。一項目ずつ十分時間を取って説明を行っており、説明不足がない様に配慮している。また、不安や疑問などがなければ確認している。長期にわたる利用での不安や料金改定の説明での疑問は、ご家族が納得されるまで説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	感染予防対策の為に運営推進会議は開催出来ないがサービス担当者会議は定期的に短時間の面談もしくは電話にて開催、ご本人様やご家族様からの意見を聞く機会を設けている。コミュニケーションを取りながら要望がないかお聞きしている。	職員と利用者の日々の会話の中で意向や思いを把握している。パンが食べたいとの意見が出れば、職員と一緒にパン屋のイートインスペースでパンを食べる等、外出支援を取り入れている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	感染予防対策の為にミーティングが開催出来ないために法人は年に一度、グループホームは定期的にアンケートを実施、意見を業務に反映、改革を図っている。	自己評価については、直近2年間を振り返り、職員と一緒に話し合い、とりまとめている。管理者は、月に1回、職員にアンケートを実施して、要望や意見を聴き、アンケートで出た意見を集約して、運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、職員と労務担当者が個別に面談する機会を設けている。日頃から職員がやりがいを持って働けるよう、職場環境の整備に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、個別面談にて決定しており年齢や性別などの制限は設けていない。感染予防対策以前は職員一人ひとりの能力や経験に合わせて積極的に外部研修の機会を設けていた。	定年後も希望があれば継続して働くことができる。働きやすい環境が整備されており、職員は安定して長く勤務され、利用者、家族の安心にも繋がっている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	感染予防対策により施設内で人権・接遇等に関する資料を定期的に回覧行い、日頃よりご利用者様に対する言葉使い等について気を配るよう促している。	人権教育・啓発活動に関する外部・内部研修については、ここ数年開催・参加がない。	女性、子ども、高齢者、障害のある人、部落差別（同和問題）等、幅広い人権の課題についての研修会の開催を期待する。
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染対策予防にて定期的な施設内での勉強会を行っていないが職員の能力、経験に合わせてグループホーム内での係や委員会の担当を任せている。感染予防対策の為に外部研修への参加は行っていない。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染予防対策の為に現在、近隣の病院、施設との交流は控えているが、今後は介護つながりプロジェクト2021を立ち上げ交流を予定している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前には必ず面談を行い、ご本人様より希望や不安についてお聞きしている。不安については特に注意し声かけや対応に配慮している。サービスを安心して受け入れて頂く様、信頼関係構築に努めておりスタッフ間でも情報交換を行っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前には必ずご家族と面談を行い、不安や要望などお聞きしている。ご家族様とよく話し合いを行い信頼関係の構築に努めるとともに、当施設の方針をご理解頂く様に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のご本人様やご家族との面談の中で、どのような生活を望んでいるのかを把握するよう努めている。その中で当施設で提供可能なサービスについて説明し納得された上でご入居頂いている。ご本人様やご家族の希望するサービスが提供出来ない場合は他の事業所を紹介する場合がある。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフはご本人様の力を借りながら、食器拭き、野菜の皮むき、洗濯物たたみなどお願ひし共に生活している。スタッフはご利用者様の思いを尊重しながらひとりひとりに合った個々の力を大切に支援するよう努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染予防対策の為にご家族を招待した行事、ご家族との外出支援は行っていないが、遠方のご家族とはリモート面会、毎月担当者からご家族様へご利用者様の近況報告や写真を送ったりしてご家族様との情報共有に努めている。携帯電話をお持ちの方は操作の支援や手紙を頂いた際は返信のお手伝いをしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院への受診支援は行っているが、その他の外出については感染予防対策の為に遠慮頂く事をご本人様、ご家族様に説明ご了承頂いている。	利用者の馴染みの場所や人については、入所時に聴き取りを行っている。職員は利用者との日々の会話等から職業や生活歴について把握するようにしている。職員は利用者が所持している携帯電話の使い方を教えながら、一緒に家族に電話をかけたたり支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは日頃からご利用者様の人間関係を把握し、ご利用者様間のトラブルを未然に防ぐように努めている。また、大きな声を出したり、密接になるレクリエーションは行っていないが、フリップレクリエーション時は席の配置を工夫している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院の為に退所された方で、併設された特養への入所希望があればご案内、入所申し込みの支援を行っている。グループホームご利用の方が特養にご入所されていたら尋ねて交流を図っていたが感染予防対策の為に現在は行っていない。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	スタッフは日頃よりご本人様やご家族様との会話の中で希望や意向の把握に努め、希望に沿った生活が送れるように配慮している。又、把握が困難な方の場合は、ご家族様からの情報や入居前のサービス事業所からも情報を得ている。	以前の暮らしや好きな物を聞く等、本人の希望や意向を把握するように努めている。また、思いを上手く伝えられない利用者に対しては、しぐさや表情から汲み取るように努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフはご本人様やご家族様からの情報やご利用者同士の会話を参考にするとともに、日頃よりご利用者様ひとりひとりの生活歴、好みなどの情報収集に努めている。また、スタッフ同士、情報共有に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフは日頃よりひとりひとりの生活リズムを理解し尊重している。毎日のバイタル測定や細やかな表情を気かけ様子観察を行っている。又、余暇活動、テーブル作業にてご入居者様の出来る力分かる力を発見した時は情報の共有に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングでは、計画作成担当者や担当スタッフだけでなく他のスタッフからも幅広く意見を募り行っている。意見をもとに担当者会議にてご本人様やご家族様の意見を受け、ご本人様が安全にかつ安心して希望する生活が送れるための介護計画の作成に努めている。	担当職員が日頃の様子を把握し、計画担当者と相談しながら介護計画を作成し、担当者会議で介護計画を家族に説明して同意を得ている。食事が低下している等、医師の意見が欲しい時には医師に相談している。モニタリングをして半年に1度、介護計画を見直している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録については、キーワードを基に日常の様子など細かい点について、ご本人様の言葉も記入している。また、記録だけでは伝わらない点については、毎日申し送りを行い口頭にて伝達している。問題点があればその都度話し合いを行い解決するようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マンツーマン対応、不穏なご入居者様がおられる時は、ご入居者様の状態に合わせ、スタッフの配置、勤務時間の変更を管理者、スタッフリーダーの判断で臨機応変に対応行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染予防対策にのっとり、在宅時の馴染みの病院や薬局を把握し、入居後も引き続き利用できるように支援しているが地域との交流は出来ていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、ご本人様、ご家族様に意向を伺い希望を尊重している。それぞれの主治医と連携をとりながらご利用者様の健康管理を行っている。また、訪問歯科回診も行っている。	利用開始前からのかかりつけ医を希望される場合は、家族が付き添って通院しているが、その際、希望により職員が付き添い支援する事もある。職員が同行しない時は、状況を報告書に記入して家族に渡し、受診から戻ってきた際に、医師からの指示を聞いている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホーム内に看護師は配属されていないが、日々の状態で疑問に感じた場合や急変時の対応、感染の予防など必要な場合は併設の特養の看護師に相談助言を受けている。また、訪問診療のかかりつけ医の看護師と連携をとり、ひとりひとりの健康管理に努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者が入院した場合、感染予防対策の為に病院へは訪問せず電話、FAX等で看護師、ソーシャルワーカーに話を聞き、治療の経過やご利用者様の状況について情報を得ている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所希望の問い合わせや入所契約時に施設で出来る事、出来ない事についてご本人やご家族様に必ず説明し納得して頂いている。重度化した場合は、主治医に相談し連携を強化すると共にスタッフ全員が情報を共有している。当施設で生活が続けられなくなった場合、当施設、主治医、病院と連携を取り受け入れ先を探している。	重度化や終末期の対応については、医師と家族に随時相談しながら、可能な限り本人や家族の意思を尊重しながら支援している。医療的な処置を含むことにより対応できない時は、転院の援助を行っている。	早い段階から家族に重度化や終末期のあり方を説明できるように、対応方針について明文化されることを期待する。
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフは対応について理解している。各項目でマニュアルを作成し、定期的に見直し、グループホーム内で研修を行っている。また、感染対策用の備品は直ぐ取り出せる場所に設置、定期的な点検を心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	感染予防対策にて火災訓練は実施できていないが、災害時は昼夜を問わずご利用者が避難出来るようにマニュアルを作成、職員一同理解している。豪雨時の避難訓練を予定している。	年2回避難訓練を実施していたが、コロナ禍のため、災害時のマニュアルを作成し、利用者が安全に避難できるよう全職員が書面にてシュミレーションを行っている。また、食料・飲料水については事業所内に備蓄し、備品については併設施設に備蓄している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で声かけ、対応などについて個人の気持ちを尊重し、プライバシーの確保に努めている。プランの中にも盛り込んでいる。又、個人の資料は鍵のかかるロッカーで保管している。	排泄を誘導する時は、なるべく本人の耳元で声かけし、周りに聞こえないように配慮している。プライバシー保護に関するマニュアルがあり、定期的に研修を行っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様とのコミュニケーションをとりながら、ひとりひとりの思いを引き出す様に努めている。ご入居者様同士の会話の中からもご本人の思いを汲み取り、ご本人様が自己決定出来るよう支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に考慮しながら、起床時間、食事時間などご本人様の希望に副えるよう心掛けている。レクレーション、入浴などの担当者を決め、コミュニケーションを取りながら、より細やかな支援が行えるよう配慮している。外出支援に関しては感染予防対策のために希望に副えていない。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	みだしなみは、ご本人様がその日着たい洋服を着て頂き、化粧は居室、洗面所を利用して頂いている。使い慣れた化粧品の購入希望時はお手伝い、支援を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと一緒に食材の下処理（皮むき、種取りなど）や片付けを感染対策に配慮しながら行っている。また、季節感を感じて頂けるよう、メニュー、おやつを工夫したり、個々に合わせた食事形態、器を使用し食べやすさに考慮している。職員は感染対策によりご一緒に食事は控えている。	利用者もキッチンに入って、職員と一緒に下ごしらえをしたり、食器拭きを手伝ったりしている。献立は職員が考えたものを併設施設の管理栄養士に栄養面などをチェックしてもらっている。また、菜園で育てた野菜やトマトなどを食事に取り入れている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事は管理栄養士が栄養バランスをチェック、食事量は不足のないよう毎食、摂取量を把握している。不足している場合は、主治医に相談しながら補助食品やご本人様の好みに合わせ提供するよう努めている。水分制限のあるご利用者様はその方に合わせた量を把握し支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、見守り、介助を行っている。義歯については、就寝前にお預かり洗浄を行っている。また、週1回の訪問歯科回診があり相談しながら口腔内の清潔に努めている。歯科診療情報提供書をもとにスタッフ全員がご入居者様の口腔内の把握に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄習慣を把握し、ご入居者様がストレスなく排泄が行えるように声かけ、見守り、介助を行っている。介助の際は出来るだけ残存機能を活かし、ご自分で出来る所はして頂くように支援している。スタッフは機会あるごとにパット、紙パンツの使用が妥当か話し合いを行っている。	排泄表等を用いて利用者一人一人の排泄パターンを把握し、利用者の状態に合わせて、なるべくトイレで排泄してもらうように支援している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用して、スタッフ全員で確認している。便秘が続かないよう、リハビリ体操を行ったり、水、牛乳等の水分を多めに摂取して頂くよう声かけしている。また、便秘が続いていた場合は、主治医に相談、改善に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ご本人様の体調、血圧を考慮しながら入浴を行っている。拒否がある場合は、声かけの方法、時間帯、スタッフの交代等工夫し入浴して頂けるよう努めている。また、季節に応じて菖蒲湯、ゆず湯、沐浴剤を使用し、入浴を楽しんで頂いている。	毎日、入浴の準備をして、利用者がいつでも入浴できるよう支援している。コミュニケーションをとりながら、ゆっくりと入浴できることを心掛けている。入浴を拒否される利用者には、無理強いをせず、職員を変えたり、日を変えたり、工夫して支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の体調に考慮し希望に副って休憩して頂いている。ご本人様の生活習慣に合わせて昼寝を取り入れている。夜間不眠の訴えがあった時は、傾聴を行いフロアーにてスタッフと一緒に過ごして頂いている。また、夜間の不眠が続くご本人様の不穏につながる場合は、主治医と連携をとり支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になった場合は、書面と口頭にて申し送りスタッフ全員が情報を共有するようにしている。体調の変化には十分注意し、変化が見られた場合は主治医に相談し、薬の調整を行っている。又、薬に対して拒否がある場合は主治医、薬局へ相談、形状、服用方法を工夫している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	感染予防対策中、役割、楽しみ事が少なくなっている。ご入居者様の得意分野を見つけ、家事活動を行ったり、体操、パズルなどを取り入れ生活が退屈にならない様支援している。食べる楽しみに重点を置き、デザートを増やしたり、食器をプレート皿に変えたり工夫している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防対策の為にご家族、スタッフとの病院受診以外は行えていない。施設周辺の散歩は行っている。	コロナ禍で買い物や外出ができなため、ドライブに行ったり、事業所の中で行楽弁当を食べたり、デザートバイキングを実施する等、工夫して支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設でお預かりしているが、ご本人様が希望された場合は、ご家族に紛失などの危険がある事を説明し了解を頂いたうえで、お金を所持して頂いている。お金の認識が難しい方は、事故の危険もありご家族に説明しお預かりしている。希望者には感染予防対策に配慮し、施設内で最小限の買い物の支援を行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、ご家族やご友人に電話をかけるお手伝いをしている。また、携帯電話をご使用の方については使用時支援を行っている。年始には年賀状を出して頂く様支援、年始以外にもご家族、ご友人の方からお手紙、贈り物が届いた際は、お礼の電話、お手紙を出して頂く様支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアのディスプレイは季節感取り入れ心地良く過ごして頂けるよう配慮している。テレビ、CDの音量、スタッフの声、室温、光などの細かい部分についてもストレスとにならない様、気を配っている。トイレは共用の為に、清掃、臭い、冬場の温度差に気をつけている。	建物は和風の造りで全体的に広く、ゆったりとしている。壁面には、季節を感じる物や雰囲気の良い絵画が飾られており、落ち着ける空間となっている。密にならないように椅子やテーブルの配置についても配慮されている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア以外でも談話スペースを設けている。テレビ前、廊下にソファを置き、日向ぼっこ、散歩、談話など仲の良いご利用者同士で過ごして頂けるよう工夫している。また、一人でくつろげる場所も設置している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使用されていた馴染みの家具、調度品、仏壇、ご本人様が作った作品を展示したり、音楽が好きな方はラジカセを置いたり、趣味のものを取り入れ自由に自分の部屋を使用して頂いている。また、安全面にも考慮し安全バーも設置している。エアコンの風が苦手な方は直接当たらないように配慮している。	和風の開き戸で畳部屋であり、馴染みのある造りで居心地が良い居室となっている。家具類も使い慣れた物が持ち込まれている。転倒予防の為に家具の配置を工夫したり、手すりを設置し、安全面にも気を配っている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様ひとりひとりの生活ペースを把握し、個々の部屋の玄関のドアを色分けし、しっかり目立つように表示している。生活していく中で事故に繋がる恐れのある時は、ご本人、ご家族と話し合い環境作りに努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
			○	③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
			○	④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	[楽しく・美しく・いつまでも・地域と共に]の介護理念を掲げている。スタッフは毎日申し送り時に介護理念を暗唱している。また、理念を元に昨日実施した利用者利用者様との関りを報告してもらっている。スタッフ同士良い刺激となっており、理念を意識しながら日常業務に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防のために実施できていない。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として介護相談センターを設け、地域の方が認知症を含めた高齢者介護全般について相談出来る場を設けているが感染予防のために地域の施設、病院と協力し開催していたサロンは現在実施出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染予防のために運営推進会議の開催は実施できていないが、委員の方に現状報告を定期的に行い、意見を聞く体制は取っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	感染予防のために市町村の担当者と積極的に連絡を取り強力関係を築くのは難しいが、困り事があったときは電話等で相談している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設方針で拘束は行っていない。身体拘束マニュアルを作成し、スタッフが閲覧出来るようにしている。マニュアルは定期的に見直し、話し合いを行っている。施設内では身体拘束廃止委員会による資料を回覧行い学びの場を設けている。日中、玄関の施錠は行っていない。居室施錠が必要なご利用者様はご家族へ説明し同意を得て、ケアプランに反映させている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	感染予防のために全スタッフは施設内で資料での回覧研修にて高齢者虐待防止について学ぶ事が出来る。万が一、スタッフが虐待へと繋がる対応を発見した場合は迅速に対応している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	感染予防のために全スタッフは施設内の資料での回覧研修において成年後見人制度・日常生活自立支援事業について学びの機会を設けている。入居契約時には成年後見制度についてご説明を行っている。また、ご家族からの希望があれば申請手続きに関して支援、協力をしている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、重要事項・契約内容について読み合わせを行っている。一項目ずつ十分時間を取って説明を行っており、説明不足がない様に配慮している。また、不安や疑問などがないか確認している。長期にわたる利用での不安や料金改定の説明での疑問は、ご家族が納得されるまで説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	感染予防対策の為に運営推進会議は開催出来ていないがサービス担当者会議は定期的に短時間の面談もしくは電話にて開催、ご本人様やご家族様からの意見を聞く機会を設けている。コミュニケーションを取りながら要望がないかお聞きしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	感染予防対策の為にミーティングが開催出来ないために法人は年に一度、グループホームは定期的にアンケートを実施、意見を業務に反映、改革を図っている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、職員と労務担当者が個別に面談する機会を設けている。日頃から職員がやりがいを持って働けるよう、職場環境の整備に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、個別面談にて決定しており年齢や性別などの制限は設けていない。感染予防対策以前は職員一人ひとりの能力や経験に合わせて積極的に外部研修の機会を設けていた。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	感染予防対策により施設内で人権・接遇等に関する資料を定期的に回覧行い、日頃よりご利用者様に対する言葉使い等について気を配るよう促している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染対策予防にて定期的な施設内での勉強会を行っていないが職員の能力、経験に合わせてグループホーム内での係や委員会の担当を任せている。感染予防対策の為に外部研修への参加は行っていない。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染予防対策の為に現在、近隣の病院、施設との交流は控えているが、今後は介護つながらプロジェクト2021を立ち上げ交流を予定している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前には必ず面談を行い、ご本人様より希望や不安についてお聞きしている。不安については特に注意し声かけや対応に配慮している。サービスを安心して受け入れて頂く様、信頼関係構築に努めておりスタッフ間でも情報交換を行っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前には必ずご家族と面談を行い、不安や要望などお聞きしている。ご家族様とよく話し合いを行い信頼関係の構築に努めるとともに、当施設の方針をご理解頂く様に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のご本人様やご家族との面談の中で、どのような生活を望んでいるのかを把握するよう努めている。その中で当施設で提供可能なサービスについて説明し納得された上でご入居頂いている。ご本人様やご家族の希望するサービスが提供出来ない場合は他の事業所を紹介する場合がある。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフはご本人様の力を借りながら、食器拭き、野菜の皮むき、洗濯物たたみなどお願ひし共に生活している。スタッフはご利用者様の思いを尊重しながらひとりひとりに合った個々の力を大切に支援するよう努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染予防対策の為にご家族を招待した行事、ご家族との外出支援は行えていないが、遠方のご家族とはリモート面会、毎月担当者からご家族様へご利用者様の近況報告や写真を送ったりしてご家族様との情報共有に努めている。また、お手紙を書かれる時は支援行っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院への受診支援は行っているが、その他の外出については感染予防対策の為にご遠慮頂く事をご本人様、ご家族様に説明ご了承頂いている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは日頃からご利用者様の人間関係を把握し、ご利用者様間のトラブルを未然に防ぐように努めている。また、大きな声を出したり、密接になるレクリエーションは行えていないが、フリップレクリエーション時は席の配置を工夫している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院の為に退所された方で、併設された特養への入所希望があればご案内、入所申し込みの支援を行っている。グループホームご利用の方が特養にご入所されていたら尋ねて交流を図っていたが感染予防対策の為に現在は行えていない。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	スタッフは日頃よりご本人様やご家族様との会話の中で希望や意向の把握に努め、希望に沿った生活が送れるように配慮している。又、把握が困難な方の場合は、ご家族様からの情報や入居前のサービス事業所からも情報を得ている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフはご本人様やご家族様からの情報やご利用者同士の会話を参考にするとともに、日頃よりご利用者様ひとりひとりの生活歴、好みなどの情報収集に努めている。また、スタッフ同士、情報共有に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフは日頃よりひとりひとりの生活リズムを理解し尊重している。毎日のバイタル測定や細やかな表情を気にかけて様子観察を行っている。又、余暇活動、テーブル作業にてご入居者様の出来る力分かる力を発見した時は情報の共有に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングでは、計画作成担当者や担当スタッフだけでなく他のスタッフからも幅広く意見を募り行っている。意見をもとに担当者会議にてご本人様やご家族様の意見を受け、ご本人様が安全にかつ安心して希望する生活が送れるための介護計画の作成に努めている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録については、キーワードを基に日常の様子など細かい点について、ご本人様の言葉も記入している。また、記録だけでは伝わらない点については、毎日申し送りを行い口頭にて伝達している。問題点があればその都度話し合いを行い解決するようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マンツーマン対応、不穏なご入居者様がおられる時は、ご入居者様の状態に合わせ、スタッフの配置、勤務時間の変更を管理者、スタッフリーダーの判断で臨機応変に対応行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染予防対策にのっとり、在宅時の馴染みの病院や薬局を把握し、入居後も引き続き利用できるように支援しているが地域との交流は出来ていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、ご本人様、ご家族様に意向を伺い希望を尊重している。それぞれの主治医と連携をとりながらご利用者様の健康管理を行っている。また、訪問歯科回診も行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホーム内に看護師は配属されていないが、日々の状態で疑問に感じた場合や急変時の対応、感染の予防など必要な場合は併設の特養の看護師に相談助言を受けている。また、訪問診療のかかりつけ医の看護師と連携をとり、ひとりひとりの健康管理に努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者が入院した場合、感染予防対策の為に病院へは訪問せず電話、FAX等で看護師、ソーシャルワーカーに話を聞き、治療の経過やご利用者様の状況について情報を得ている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所希望の問い合わせや入所契約時に施設で出来る事、出来ない事についてご本人やご家族様に必ず説明し納得して頂いている。重度化した場合は、主治医に相談し連携を強化すると共にスタッフ全員が情報を共有している。当施設で生活が続けられなくなった場合、当施設、主治医、病院と連携を受け入れ先を探している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全スタッフは対応について理解している。各項目でマニュアルを作成し、定期的に見直し、グループホーム内で研修を行っている。また、感染対策用の備品は直ぐ取り出せる場所に設置、定期的な点検を心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	感染予防対策にて火災訓練は実施できていないが、災害時は昼夜を問わずご利用者が避難出来るようにマニュアルを作成、職員一同理解している。豪雨時の避難訓練を予定している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で声かけ、対応などについて個人の気持ちを尊重し、プライバシーの確保に努めている。プランの中にも盛り込んでいる。又、個人の資料は鍵のかかるロッカーで保管している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様とのコミュニケーションをとりながら、ひとりひとりの思いを引き出す様に努めている。ご入居者様同士の会話の中からもご本人の思いを汲み取り、ご本人様が自己決定出来るよう支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に考慮しながら、起床時間、食事時間などご本人様の希望に副えるよう心掛けている。レクレーション、入浴などの担当者を決め、コミュニケーションを取りながら、より細やかな支援が行えるよう配慮している。外出支援に関しては感染予防対策のために希望に副えていない。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	みだしなみは、ご本人様その日着たい洋服を着て頂き、化粧は居室、洗面所を利用して頂いている。使い慣れた化粧品の購入希望時はお手伝い、支援を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと一緒に食材の下処理（皮むき、種取りなど）や片付けを感染対策に配慮しながら行っている。また、季節感を感じて頂けるよう、メニュー、おやつを工夫したり、個々に合わせた食事形態、器を使用し食べやすさに考慮している。職員は感染対策によりご一緒に食事は控えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事は管理栄養士が栄養バランスをチェック、食事量は不足のないよう毎食、摂取量を把握している。不足している場合は、主治医に相談しながら補助食品やご本人様の好みに合わせ提供するよう努めている。水分制限のあるご利用者様はその方に合わせた量を把握し支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、見守り、介助を行っている。義歯については、就寝前にお預かり洗浄を行っている。また、週1回の訪問歯科回診があり相談しながら口腔内の清潔に努めている。歯科診療情報提供書をもとにスタッフ全員がご入居者様の口腔内の把握に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄習慣を把握し、ご入居者様がストレスなく排泄が行えるように声かけ、見守り、介助を行っている。介助の際は出来るだけ残存機能を活かし、ご自分で出来る所はして頂くように支援している。スタッフは機会あるごとにパット、紙パンツの使用が妥当か話し合いを行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用して、スタッフ全員で確認している。便秘が続かないよう、リハビリ体操を行ったり、水、牛乳等の水分を多めに摂取して頂くよう声かけしている。また、便秘が続いていた場合は、主治医に相談、改善に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ご本人様の体調、血圧を考慮しながら入浴を行っている。拒否がある場合は、声かけの方法、時間帯、スタッフの交代等工夫し入浴して頂けるよう努めている。また、季節に応じて菖蒲湯、ゆず湯、沐浴剤を使用し、入浴を楽しんで頂いている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の体調に考慮し希望に副って休憩して頂いている。ご本人様の生活習慣に合わせて昼寝を取り入れている。夜間不眠の訴えがあった時は、傾聴を行いフロアーにてスタッフと一緒に過ごして頂いている。また、夜間の不眠が続くご本人様の不穩につながる場合は、主治医と連携をとり支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になった場合は、書面と口頭にて申し送り、情報の共有に努めている。体調の変化には十分注意し、変化が見られた場合には直ぐに主治医に相談し、薬の調整等を行っている。薬に対して拒否がある場合には主治医、薬局に相談し服用方法を工夫している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	感染予防対策中、役割、楽しみ事が少なくなっている。ご入居者様の得意分野を見つけ、家事活動を行ったり、体操、パズルなどを取り入れ生活が退屈にならない様支援している。食べる楽しみに重点を置き、デザートを増やしたり、食器をプレート皿に変えたり工夫している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防対策の為にご家族、スタッフとの病院受診以外は行えていない。施設周辺の散歩は行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設でお預かりしているが、ご本人様が希望された場合は、ご家族に紛失などの危険がある事を説明し了解を頂いたうえで、お金を所持して頂いている。お金の認識が難しい方は、事故の危険もありご家族に説明しお預かりしている。希望者には感染予防対策に配慮し、施設内で最小限の買い物の支援を行っている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、ご家族やご友人に電話をかけるお手伝いをしている。また、携帯電話をご使用の方については使用時支援を行っている。年始には年賀状を出して頂く様支援、年始以外にもご家族、ご友人の方からお手紙、贈り物が届いた際は、お礼の電話、お手紙を出して頂く様支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアのディスプレイは季節感取り入れ心地良く過ごして頂けるよう配慮している。テレビ、CDの音量、スタッフの声、室温、光などの細かい部分についてもストレスとならない様、気を配っている。トイレは共用の為に、清掃、臭い、冬場の温度差に気をつけている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア以外でも談話スペースを設けている。テレビ前、廊下にソファを置き、日向ぼっこ、散歩、談話など仲の良いご利用者同士で過ごして頂けるよう工夫している。また、一人でくつろげる場所も設置している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使用されていた馴染みの家具、調度品、仏壇、ご本人様が作った作品を展示したり、音楽が好きな方はラジカセを置いたり、趣味のものを取り入れ自由にご自分の部屋を使用して頂いている。また、安全面にも考慮し安全バーも設置している。エアコンの風が苦手な方は直接当たらないように配慮している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様ひとりひとりの生活ペースを把握し、個々の部屋の玄関のドアを色分けし、しっかり目立つように表示している。生活していく中で事故に繋がる恐れのある時は、ご本人、ご家族と話し合い環境作りに努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
			○	③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		